

教育新報

新大教育学部同窓会
 第176号
 発行人 白 杵 勇 人
 事務局 新潟大学
 教育学部内
 TEL(025)263-6760
 印刷所 (株) 文 久 堂



時代の要請に応える同窓会の取組

教育学部同窓会副会長 石栗美子

副会長を仰せつかって二年目になります。この職につかせていただいたからでしょうか、自分の学生時代を思い起こすことが多くなりました。

私は、長岡分校に二年間、新潟の西大畑の教育学部校舎に二年間通いました。同窓会の集まりでこの話をさせていただいたとき、『懐かしい』とおっしゃってくださいました方がいて、私も当時を思い出し嬉しくなったものです。

さて、平成三十年度も、臼杵勇人會長の下、教育学部はもとより教育学部研究科の維持・継続・発展を願い、会則の見直し、それに基づいた予算の作成等、支援の充実を図ってまいりました。ひとえに、母校の発展に寄与することを願うての取組です。

また、会員相互の親睦と資質向上を図るために、活動の重点を五つ定め活動を進めてきました。

一つ目は、「同窓生の集い」の充実を図ることです。講師に新潟薬科大非常勤講師の橋本定男様をお迎えし、「ドラマをつくる」教育実践、特別活動の醍醐味」の演題で講演会を開催しました。参加者から「楽しいお話で時間が経つのを忘れるほどでした」と感想が寄せられるほど、素敵な講演でした。

二つ目は「広報活動」の充実です。年間二回の発行であり、紙面構成の工夫が多くみられました。教職大学院（教育学研究科）の特集を組み、研究科長と院修了生から執筆いただきました。教職大学院立ち上げの経緯と今後の展望を広く理解いただけたのではないかと思います。

三つ目は「組織の充実と強化」を図ることです。県内外の同窓生同士のつながりを支援するために、同期の会へ

の補助を行いました。また、研修部・広報部・組織部・交流部の専門部の活動も、部長を中心に改善を図ってまいりました。

四つ目が「大学との連携」です。特に今年度は「カミングホームデイ」の内容充実を図りました。会場を「じよいあす新潟会館」にして、懇親会をメインに、卒業生の現在の状況や学部・教育学研究科への要望、同窓会活動への提言等について情報交流を行いました。卒業生が遠方の勤務校より参加された、仲間意識がさらに高まり、有意義な時間を過ごすことができました。

五つ目が全学同窓会との連携です。今年度は理学部が担当で、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。全学部出身者が集う貴重な機会で大勢の方々が再会を喜び、交流を深めていきました。

このように、滞りなく活動が進められたのも皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。しかし、課題も山積しています。平成三十一年度の県教員採用選考検査の倍率が、小学校教諭は二倍を下回りました。少子化・緊縮財政等、大学の現状も厳しいものがあります。こういった時代だからこそ、同窓会の皆様の結束が必要と考えます。新潟大学教育学部、教育学研究科、学生の支援に会員の皆様の力を結集して当たることができますよう、今後とも同窓会への御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

風鳥花

同窓会の広報部を担当して三年目を迎えた。新潟大学教育学部に教職大学院が創設された年からである。また、当時の職場に院生がいたことで、大学に行く機会が増えたり、大学教官を職場に迎えたりと、大学院の存在を身近に感じることができた。

今年度は、初の修了生が誕生したこともあり、前号では大学院立ち上げの経緯や大学教授、修了生からそれぞれの立場で寄稿いただいている。これからの教育を支える新しい学び方と、それを支えるシステムは確実に現場と大学をつなぎ、結んでいくと期待している。

今後、教職大学院が目指す「理論と実践の往還」がどのように展開され、現場に役立っていくのか期待は高まるばかりである。

また、教職大学院の教授が院生の職場である学校に定期的に来校するというシステムは画期的である。それは、院生の研究を支援する形で学校の教育課題解決に向けたバックアップが行われることを意味するからである。

そう考えると、ますます新潟大学教育学部が発展することを願うとともに、学ぶ機会が広がることで学び続ける教師像を具現する役割を果たすことだろう。現場で生き生きと活躍する教師を見て、教員を目指す学生が増えることを願っている。

(広報委員長 本間アユ子)

新潟大学教育学部同窓会

第四十五回同窓生の集い

研修部副部長 小泉 慎子

九月二十九日、アートホテル新潟において「ドラマをつくる ～教育実践、特別活動の醍醐味～」と題して、新潟薬科大学の橋本定男先生よりご講演をいただきました。

していく方向を示唆してくださることでしょう。

○記念講演

人前で話す時

は詳しい例え話、つまりドラマやエピソードを入れることが大事だと橋本先生は語られました。

ドラマづくりに

は「ドラマ志向」が必要で「エンターティナー・サービス精神・遊び心・センス・ゆとり」がその要素に当たりま

す。この要素は「教師力」とも言い換えられ、教師力をもつ人の授業は必ず面白くなります。

ここで、橋本先生の特活エピソードを紹介します。

「サプライズで担任号泣」エピソード

ため学級経営に苦しんでいる若い先生がいました。そこで全ての子にスポットライトの当たる活動としてお誕生会やってみてはと提案されたそうです。すると、ある日、その先生が号泣しながら山と積まれたプレゼントを両手で持って教務室へ入って来ました。その先生の誕生日に、子どもたちがどんどん画板の上にプレゼントを乗せていくというサプライズがあったのです。担任と子どもたちの信頼関係が成立した心温まるエピソードでした。

「現金紛失事件」エピソード

橋本先生が三十代で四学年を引きついで春、教室から歓送迎会の現金四千円入り封筒が一つ紛失しました。各自のポケットまで探しましたが出ません。

橋本先生は「これは道徳だ。テーマは『信じる』。ライブ感覚の学級通信で親も巻き込む。」と腹をくくりました。

犯人捜しではなくお金が戻ることをゴールに「封筒を持つ人は教卓脇の棚の引き出しに戻してほしい。」と訴えた後、クラス全員を校庭に連れ出しました。一人ずつ順番に教室へ行ってまた校庭へ戻ってくるのです。結果、棚の引き出しに半額の入った封筒が戻ってきたのです。翌日も続け、四日目に完全に全額が戻りました。子どもたちを信じて覚悟を決めた素晴らしいエピソードでした。

ードでした。

他にも、橋本先生は、情熱あふれる子ども主役のエピソードを数多く語ってください、大変充実した講演会になりました。



一 記念講演会

○開会の挨拶

白杵勇人同窓会会長より講師紹介がありました。

橋本先生は昭和四十五年卒業の同窓生です。ご卒業後、県内の小学校、附属新潟小学校、鏡淵小学校を歴任され、ご退職後は上越教育大学教授をはじめ県内外の多くの大学で教鞭をとられてきました。ご専攻の特別活動、生徒指導、学級・学校経営の著書も多く、数々の素晴らしい実践を発表しています。今、教育界は新学習指導要領の全面実施に向けて、いじめ撲滅や特別支援教育の充実に力を入れています。橋本先生のお話は、今後、私たちが目指

二 懇親会

- (一) 開会の挨拶 白杵勇人会長
- (二) 祝辞 八坂剛史副学部長
- (三) 乾杯 斎藤寿一郎顧問
- (四) 懇親会
- ・橋本定男様 ご挨拶
- (五) 万歳三唱 瀬藤雄二 副会長
- (六) 閉会の挨拶 水澤玲子 副会長

今年の懇親会参加者は四十余名でした。来年度もお待ちしております。

会員の広場

今も昔も



湯沢町立湯沢中学校

小片 宏記

新潟大学を卒業し、早くも五年が経ちました。湯沢町での教員生活も二年目になり、学校のこと、子どものことが分かってくると、やりたいことが見えてきました。そこにやりがい、楽しさを感じると同時に、現実と理想とのギャップに自信を失くし、打ちひしがれるときもありました。

ここ最近、友人の結婚式などで大学時代の同級生がそれぞれの立場で活躍していることを聞くに付け、とても刺激を受けています。また大学時代の友人とお酒を飲んでみると、大学時代を思い出し、あの頃の熱い気持ちを蘇らせてくれます。大学時代の友人は今でも落ち込んだ私を奮い立たせてくれる、かけがえのない大切な仲間です。

新しい生活の中で



糸魚川市立糸魚川東中学校

関 拓也

大学を卒業し、気が付くと二十数年。しかし、大学院で学んだこともあって、何かわからない事がある場合、教育学部を気軽に訪ね、社会科学系の研究室や諸先生方から御指導を受けていた。

ところがこの四月より、糸魚川の勤務となった。これまでの教職経験で御縁のなかった地であるため「初任者の頃」をもう一度体験している。出会う人全てが「初めまして」の繰り返し。出張・研修・外出先の地理感覚が掴めない等々。それでもたまに新潟市への出張もある。中でも県立教育センターへの出張が入ると、大学に立ち寄って大学院時代の師匠にご挨拶にいたり、素晴らしい図書館を訪ねたりしようと思うが、往復三〇〇km超の移動が脳裏をかすめ、結局は帰路についている。学生時代や新採用の頃、日本海や佐渡に沈む夕日に感動した。今は、県センの帰りに能登半島に沈む夕日を見て、再び感動している。

日本語指導の担当として



十日町市立十日町小学校

富井 由美

私は今年度、外国籍の子どもたちへの日本語指導を担当している。そして、それは「日本語」の難しさに初めて気が付かされた貴重な経験にもなっている。母国語が使えない環境では、様々な言葉の壁が生まれる。例えば、「本(ほん)」は分かるが「本(ほん)」は難しい。「たな」の意味理解が不十分だったり、読み方が「だな」に変わったりするからである。「少しの違い」は、「大きな違い」なのである。

先日テレビを見ていたら、「生」は、外国人にとって難解な漢字と言っていた。生(セイ)活、芝生(フ)、生(キ)地：。熟語もあり、送り仮名も様々：。難しい日本語の環境で彼らを感じている日々の不安感は相当なものであろう。その一方で、外国籍の子どもたちは、グローバルな見方をもつ存在でもある。そのことを私達は、忘れがちである。日本で生活しても、母国への誇りや「自分ができる」という自己肯定感を持ち続けられるよう、支援していきたい。

今、考えること



加茂市立下条小学校

川井 拓郎

「子どもに、この世は生きるに値するんだ、と伝えるのが仕事の根幹になればいけない」。これは、宮崎駿監督が、引退会見で述べた言葉です。この言葉を聞いたときに心が震えました。困難を抱えている子、荒れている子どもたちに出会う度、どうすることもできない状況に立ちすくむばかりでした。「彼らに、自分は何ができるのだろうか」。そんなことを考えていました。仲間に相談し仲間と語り、先輩に教えを請い、本を読み漁り、学習会へ出かけていきました。そして、冒頭の言葉を聞き、自分の中で一つ芯が通りました。

「今日学校に来て良かった」「先生に褒められてよかった」「生きていればさっさといいことがある」。子どもの存在を認め、希望をもたせる。それなのだ、と思いました。子どもたちも成果ばかり求めるのではなく、子どもたちの豊かな学びを保障していくことが大切であると感じています。

学校紹介 ①

子どもたちの幸せを願って
新しい一歩を力強く踏み出す



新発田竹俣特別支援学校いじみの分校

当校は、県北新発田市の自然豊かな五十公野地区にあります。昨年度、新発田竹俣特別支援学校の開校により、村上特別支援学校から新発田竹俣特別支援学校の分校に変わりました。

現在は、小学部二十七名、中学部一名、高等部五名、計三十三名の児童生徒が日々の学習に熱心に取り組んでいます。「つながり」をキーワードに新しい一歩を踏み出した当校を紹介します。

一 新しい教育目標「しなやかに」
児童生徒が「若竹のようにしなやかに伸び伸びと成長してほしい」「様々な困難にも明るく柔軟に立ち向かい克服してほしい」という願いを込めて、今年度から新しい教育目標を設定しました。

二 児童生徒同士のつながり
児童生徒がたくさん友達とつながり、関わり合って楽しく学べるように学級編制と年間指導計画を大きく見直しました。学級の枠を超えた合同体育や合同音楽の実施、さらには普通学級

と重複障害学級の同学年児童と一緒に学習する学年タイムも始めました。

児童生徒が自分のよさや友達のよさに気づき、自信や自己肯定感が育まれ、「もっとやりたい」「次はこんなこともしたい」という学習意欲が高まっています。

三 保護者とのつながり

当校の保護者は、教育熱心で学校に対しても協力的です。学校生活と家庭生活の行動連携を図るため、登下校時や連絡帳等を通した日常的な情報交換を大切にしています。特筆すべきは、活発なPTA活動です。先日行われたPTA「親子ミニ運動会」では、計画・準備・運営等を役員の方が一手に引き受け、パン食い競争など工夫された種目で参加者全員とても楽しい時間を過ごすことができました。

四 職員同士のつながり

特別支援学校は複数担任制です。そのため、職員は毎日児童生徒の情報交換と支援の共有化に努め、授業の準備や、個に応じた教材作りに力を入れて

います。今年度の研修テーマは『児童生徒の自立を目指した支援のあり方』です。PDC Aシートを活用して、グループ研修と全体研修の両方から進めています。

五 地域や関係機関とのつながり

児童生徒が豊かな体験学習ができるように「イクネスしばた」での絵本の読み聞かせ、市役所会議場での「音楽授業」「紫雲の郷」の水泳教室など地域資源を積極的に活用するようにしています。

また、児童生徒の卒業後を見据え、社会福祉協議会、福祉施設関係等の職員とケース会議を通した早期からの情報交換に取り組んでいます。さらに、地域から信頼される学校を目指し、教育相談や研修会等を定期的

に実施しています。
職員は目の前の児童生徒の幸せを願って、一人一人の自己実現を目指し、専門性の向上に一層努めています。



(文責) 教頭 亀倉 隆嘉

平成三十年
会務報告



平成三十年

入学生保護者懇談会 (学部大講義室)

平成29年度会計監査

(じよいあす新潟会館)

第一回本部会(新潟教育会館)

【評議会に向けての議案審議決定】

○懇親会(新旧役員)

評議会 (新潟教育会館)

【平成29年度会務報告・決算報告】

【平成30年度活動の重点・専門部活動計画・役員及び予算案承認】

○学科代表者会・支部長会

教育新報「第175号」発行

カミングホームデイ

(じよいあす新潟会館)

役員会議

(アートホテル新潟駅前)

【同窓生の集いの打合せ】

第45回同窓生の集い

(アートホテル新潟駅前)

9・29

9・1

8・25

7・20

6・9

5・12

4・19

4・3

学校紹介

②

地域の熱い想いと支援で
心に刻む教育活動を推進する

新潟市立根岸小学校

根岸小学校は、新潟市南区の北部に位置し、中ノ口川沿い七kmの間に点在する八つの地域と国道八号線沿いの四つの地域から成り立っています。

創立は昭和五十一年。高井小学校と松橋小学校が統合して誕生し、本年度で創立四十三年を迎えた児童数百六十名の学校です。米、果樹、野菜、茸等の栽培が盛んな地域です。

本年度は、学校名をキーワードに「ねばり強く
れいぎを大切に
しなやかに 生きる子ども」

の育成を目指し、地域・保護者と一体となった教育活動を展開しています。

一 地域の伝統文化を学ぶ大風合戦
白根といえは『大風合戦』と言われ



るように、毎年六月初旬に開催され、大勢の観光客で賑わいます。しかし、根岸地域は白根の中心地から離れており、地域住民

に大風合戦の文化が浸透していないのも事実です。そこで、風文化を体感するために、根岸小学校でも四年前から子ども大風合戦に参戦することになりました。参戦するのは六年生。指導者は、根岸地域で風協会に所属する古老とその子息。風づくりを学年行事に位置付け、親子で骨組み〜紙貼り〜絵描き〜糸付け〜試し揚げの一連の作業を実施しました。風合戦当日は息を合わせて綱を引き、大空に高く揚がる自分たちの風を目の当たりにした子どもたち。

二 地域の産業を実感する農業体験
一、二年生は野菜、三年生は桃、四年生はさつまいも、五年生は米、六年生はねぎを作る体験活動を実施しています。支援・指導いただくのは地域の農業に関係する白根郷土地改良区、根岸地区

保全会、J A 白根の皆様です。一、二年生は校地内の学級園で栽培し、地域の農業従事者からご指導いただいています。三年生は白根郷土地改良区理事長の桃園を学びの場としてご提供いただき、花粉付け〜袋掛け〜袋取り〜収穫までの一連の作業を体験します。四〜六年生は栽培用に土地をご提供いただき、苗植え〜収穫までの一連の作業を体験します。どの学年も、毎回、地域の関係団体から複数の指導者・支援者を派遣いただき、丁寧にご指導いただいています。



学校では、学習発表会を感謝の気持ちを伝える場とし、指導者の皆様を招待します。大勢の保護者・地域の方々が見守る中で歌や合奏、劇を披露し、最後に児童代表がお礼の言葉とメッセージをお渡ししています。



「成人した時に、地域のよさを語る子どもを育てる」という視点を地域と共有し、地域と一体となった歩みを進めています。
(文責 校長 椿坂 恭永)

10・20 3・25 3・2 2・20 1・24

平成三十一年

- 記念講演 演題「ドラマをつくる」〜教育実践、特別活動の醍醐味〜 講師 橋本 定男氏 (新潟薬科大学非常勤講師)
- 懇親会
- 懇親会 ANAクラウンプラザホテル新潟
- 記念講演 演題「南極における地球科学研究の最前線」 講師 本吉 洋一氏 (国立極地研究所 教授)
- ミニコンサート (ピアノ演奏) 演奏者 田中 幸治氏 (新潟大学人文社会学系准教授)
- 懇親会
- 教育学部教員・職員と同窓会との懇談会・懇親会 (じよいあす新潟会館)
- 教育新報「第176号」発行
- 第二回本部会 (教育学部)
- 【平成30年度会務報告・各部署活動反省・会計執行状況の報告】
- 【平成31年度の活動方針・予算案・役員案検討】
- 卒業式・祝賀会 (朱鷺メッセ・新潟東映ホテル)

全学同窓会交流会報告

広報部部长 本間アユ子

平成三十年度新潟大学・全学同窓会交流会が十月二十日(土)にANAクラウンプラザホテル新潟で開催された。

今年度は、理学部同窓会が計画、運営にあたり、国立極地研究所の教授である本吉洋一氏を迎えての講演会となった。



「南極における地球科学研究の最前線」と題し、十一回南極観測に参加してきた経験とこれまでの研究成果を基にした内容である。越冬隊、夏隊とも経験し、観測隊長を務めたことや南極の変化についても話題とした。

二〇一七年一月に南極昭和基地は開設六十周年を迎えた。この間、日本は南極域での科学調査を展開し、オゾンホールの発見など、地球環境にかかわる数多くの成果を挙げてきた。それらの中でも、講演では「南極氷床」、「隕石」、「超大陸」という三つの切り口から地球のタイムカプセルとしての南極の姿を浮き彫りにしていく。豊富な写

真や動画を使つての説明で、観測船に乗っているのかのような臨場感に包まれ、会場中が話に引き込まれていった。最後には、これから南極に向かう方々の紹介もあり、会場中から応援の拍手が沸き起こった。日本の研究者達の実際の活躍を知ることができた貴重なひと時であった。

講演会後には、アトラクションとして、新潟大学准教授の田中幸治氏によるピアノ演奏が行われた。



シヨパンやシューマン等の美しいメロディに魅了された幸せな時間となった。

懇親会は、野本憲雄全学同窓会長の挨拶で始まり、来賓として篠田昭元新潟市長、長谷川彰元新潟大学長よりご祝辞をいただいた。

昨年度は五十四の企業・団体から協賛いただいたとの報告もなされた。

支部紹介

「柏崎・刈羽支部紹介」

柏崎市立鯨波小学校 寺井昌人

こんにちは、柏崎・刈羽支部です。柏崎・刈羽は、日本海に面した42キロに及ぶ長い海岸線と米山、黒姫山、八石山を有し、恵まれた自然や景観などに育まれた地域です。

柏崎・刈羽支部は現在会員数が19名です。支部としての活動は年度始めの会員確認です。また、人数の少ない支部ですので、柏崎・刈羽地区のボランティア活動や研修活動に便乗して参加しながら交流を深めています。

例えば、海岸清掃ボランティアに参加しています。毎年7月に行われるぎおん柏崎の花火大会の翌朝、柏崎の砂浜のゴミ拾いを行います。花火の観覧者はマナーがよいためかそれほど多くのゴミはありません。しかし、

早朝6時から一時間ほどの活動で、砂浜は随分綺麗になります。また、市内全域の職員を対象



に行われている教育関係の自主研修会に参加しています。年5回程度の研修

会です。自己研鑽や教育に関する見識を深めることが目的です。毎回20〜30名集まります。研修会のテーマは様々なですが、最近の内容だと、市内の企業の方をお招きしての「キャリア教育・職業教育」、「特別の教科道徳の評価」の情報交換、大学関係者を招いての「カリキュラムマネジメントの進め方」

「特別支援教育」などです。新大教職大学院からも講師の方をお招きすることもありました。力量のある方々から、ご講義を受けたり、ワークショップなどを行ってもらったりしながら、教員としての資質・能力を高めているところです。



これらの活動の中で、会員同士の交流を行っています。大学在学時が同時期だったりと、昔話に花が咲きます。活動参加することで人と人との結び付きが広がっていくことを感じています。そして、その結び付きをもとにさらなる研鑽の機会も増やせるのではないかと思います。

学科紹介

絆・つながり・経済学科同窓会

経済学科代表 古井丸裕 三

ドラマ「下町ロケット」が最終回を迎えました。池井戸潤さんの原作がもつ魅力に加え、新潟県燕市で大規模な撮影ロケが行われたことが大きな話題となりました。

このドラマは、中小規模の工場で働く人たちの物語です。主人公たちは、中小規模の工場ならではの困難を抱えながらも、農家の人たちを支えたいという強い願いをもち農業機械の開発に奮闘します。ドラマを見て、大学時代に経済学科で学んだ「新潟県の地場産業」や「農業労働力と経済」のことを思い出しました。

経済学科は、文字通り「経済」について学ぶ学科です。資本主義社会において経済は人々の営みそのものですから、経済学が重要な学問であることは間違いありません。しかし、その内容が教職とは直接結び付かないところもあり、卒業後に教職以外の仕事に就く方が少なからずいます。

そんな経済学科ですが、毎年「経済学科の集い」を開催しています。近年の参加者はおおむね二十名程度でそれ

ほど多いとは言えませんが、教育学部長でもある経済学科の柴田透教授をお招きしてご講演いただいたり、卒業した同窓生同士の交流を深めたりしています。また、現役の学生からも参加してもらっています。

その会の中で、多くの先輩方が「大学時代はあまり勉強しなかったかもしれないが、経済学科で過ごした時間が現在の自分をつくっている」と言っています。その言葉を裏付けるように、卒業して社会に出てから自分がやるべきことを見付け、大学で学んだ経済学や社会科学とは異なる分野で活躍している方が大勢います。また、学校現場だけではなく、教育行政などの幅広い分野で活躍している方もいます。

そのような人材を数多く輩出してきた理由は、これまでの指導教官の先生方が、わたしたちを温かく見守り、将来役に立つ「生きる力」を育ててくださったからだと思います。

経済学科同窓会は、これからも同窓生同士の交流を深め、未来につながる絆を築いていきたいと思えます。

教育学部との懇談会報告

交流部部长 永井高志

1月24日(木)夕刻、新潟市中央区「じよいあす新潟会館」を会場に、「新潟大学教育学部教員・職員と同窓会本部役員との懇談会・懇親会」が行われました。

毎年、同窓会交流部が企画・運営を行う事業で、今年度も多くの皆様からご参加いただき、相互の願いや今後の方向性を共有する、有意義な会合となりました。学部からは、ご多用の中、柴田透学部長様を始め、10名の教員・職員の皆様からご出席をいただきました。また、同窓会からは、臼杵勇人会長以下15名が出席しました。

懇談会では、臼杵同窓会会長による開会の挨拶に続いて、柴田学部長様並びに宮園教育学研究科長様から、学部や教育学研究科の現状等についてお話をさせていただきました。

その後、同窓会の各専門部等(事務局・研修部・広報部・組織部・交流部・全学同窓会)から今年度の事業の概要について報告を行いました。

最後に、本間同窓会副会長から「母校の発展のために、ますます充実した活動に取り組んでいきたい」との挨拶で、懇談会を閉じました。

引き続き、同会場での懇親会は、臼杵会長の開会の挨拶、八坂副学部長様からの乾杯のご発声で開宴となりました。懇談会で出された教育学部の現状やこれからの教育学研究科への期待、カミングホーム・デイのさらなる充実等について語り合い、学部・教育学研究科と同窓会との懇親を大いに深めることができました。小久保教育学部副研究科長様から、学部と同窓会のさらなる発展への思いを込めて、万歳をいただきました。最後に、水澤同窓会副会長の挨拶で閉会となりました。



大学のコーナー

大学の学びを現場につなげる

芸術環境講座 教授 伊野義博

将来教師を目指す学生の実践的な力を大学でどのように育成するかということは、教員養成に携わる私たちの重要な課題となっています。本稿ではこのことについて、教育学部音楽科で継続している「大学の学びを教育の実践現場につなげる授業」の一端を紹介します。

授業は、音楽科の学生が小学校を訪問し、音楽の授業や、児童と一緒になつた演奏会を行うものです。キャンパス近くの内野小学校のご理解とご協力を得て実施しています。内野小学校では、ミュージックタイムという音楽集会を定期的に開催しており、三年生児童の活動に参画するのがメインです。この授業、いわゆる一般的な「訪問演奏」とは次の点が異なります。

① 一つの小学校に限定した継続的な活動であること。学校や児童の状況に応じ、そこに特化した内容を考えます。

② 内容については、小学校と連絡を取りながら、学生が企画、立案し、練り上げていくこと。教員は、アド

バイザーとなります。

③ 単に演奏するだけではなく、児童と学生が一体となった児童参加型の演奏会を実施すること。演奏は、児童との交流活動を経て、練り上げられます。

④ 一年生から四年生までの学生が参加する、縦割りの授業として開放していること。毎年の経験の積み上げと学年間の交流が特徴です。上級生の指導力も試されます。

⑤ 可能な限り、音楽教育上の課題に応える活動にすること。未来の音楽教育の姿について、大学の学びと実践を通して考えます。

平成三十年度は、チャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」の音楽劇がテーマでした。学生は、ミュージックタイムの前、合唱の授業に参加し、内野小学校の先生方のご指導のもと、各学級が担当する歌や全体合唱を練り上げました。そして本番では、それらを学生が演じる音楽劇の中に取り入れ、児童と学生全員参加による作品として仕上げることができました。

平成二十九年度は、「アフリカ音楽」がテーマでした。かくれんぼをしていた主人公が、気がつくところは何とアフリカ。彼はアフリカで、学生が演ずる様々な音楽や踊りを体験しますが、その中に、児童の楽しい歌や踊りも披露されます。この時学生は、アフリカの楽器ジェンベ、コーラス、踊りを専門家から直接学び、練習、習得し、参加しました。

こうした経験を通して、学生は教師として必要な資質・能力を少しずつ獲得していきます。また、多様な音楽の学習やその指導法について理解するなど、音楽科の現代的な課題を認識し、その解決法などについても学んでいきます。

この授業における私たちの共有するスローガンは、「教員養成の音楽科で学ぶ学生でなければできない訪問演奏の実現」です。専門性を高め、演奏の質を追求することはもちろんですが、活動を教育の視点から捉え直すことも課題とするという認識です。また、学生同士、特に異学年のコミュニケーションの育成に役立つことも見えてきました。この授業を通して、実践現場との連携の重要性を再認識しているところ です。

事務局だより

○会費納入の御礼

会員の皆様、会費の納入ありがとうございます。ありがとうございました。学校代表の皆様方には会報配布、名簿の作成、会費の徴収、送金等にご協力頂き誠にありがとうございます。

支部長の皆様方には、各学校と事務局との架橋となつて、ご支援いただきましたことに深く感謝申し上げます。新年度も変わらずご支援を賜りますようお願いいたします。

○新年度体制に向けてのお願い

年度末始めに次の報告の依頼状を送付いたします。

- ① 支部長の報告 (三月上旬発送)
- ② 学科代表の報告 (三月上旬発送)
- ③ 学校・機関の会員の報告 (四月上旬発送)

新年度は、会員名簿の形式及び提出方法が変更されますのでよろしくお願いたします。

